



岩田 知孝 教授

岩田 知孝 教授 略歴

(学歴・職歴)

昭和	34年	3月	29日	兵庫県尼崎市に生まれる
	52年	3月		兵庫県立尼崎西高等学校卒業
	52年	4月		京都大学理学部入学
	56年	3月		同卒業
	56年	4月		京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻修士課程入学
	58年	3月		同修了
	58年	4月		京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻博士後期課程進学
平成	元年	3月		同修了（京都大学理学博士）
	元年	4月		日本学術振興会特別研究員
	元年	7月		京都大学防災研究所助手（地震動部門）
	8年	5月		同 助手（地震災害研究部門強震動地震学研究分野）
	16年	11月		同 教授（地震災害研究部門強震動地震学研究分野）
	17年	4月		同 教授（地震災害研究部門強震動研究分野）
	25年	4月		同 副所長（将来計画担当，平成27年3月まで）
令和	4年	8月		同 教授（地震防災研究部門強震動研究分野）
	6年	3月		京都大学定年退職
	6年	4月		京都大学名誉教授

(学会・委員等歴)

平成	2年	4月		京都大学総合人間学部非常勤講師（平成7年3月まで）
	2年	4月		京都大学理学部非常勤講師（令和6年3月まで）
平成	7年	4月		日本地震学会・評議員（平成9年3月まで）

	8年	5月	日本地震学会・強震動委員会委員（現在まで）
	10年	4月	日本地震学会・評議員（平成12年3月まで）
	12年	4月	日本地震学会・代議員（平成14年3月まで）
	15年	4月	日本地震学会・代議員（平成17年3月まで）
	18年	6月	日本地震学会・理事・災害調査委員会委員長（平成20年6月まで）
	19年	6月	日本自然災害学会・会計担当常務理事（平成20年3月まで）
	19年	6月	日本自然災害学会・評議員（平成23年3月まで）
	19年	9月	地盤工学会・四国管内基礎地盤情報構築検討委員会委員（平成20年3月まで）
	20年	6月	日本地震学会・理事・強震動委員会委員長（平成24年5月まで）
	22年	12月	日本地震工学会・地盤情報データベースを用いた表層地質が地震動特性に及ぼす影響に関する研究委員会委員（平成25年12月まで）
	24年	4月	日本地震学会・通常代議員（現在まで）
	26年	5月	日本地震学会・論文賞選考委員会委員（平成28年5月まで）
	26年	9月	日本地震工学会・強震動評価のための表層地盤モデル化手法研究委員会委員（平成29年3月まで）
	29年	9月	日本地震工学会・強震動評価のための表層地盤モデル化手法研究委員会委員（令和3年3月まで）
	29年	6月	日本地震工学会・第15回日本地震工学シンポジウム運営委員会（平成30年12月まで）
	31年	1月	日本地震工学会・第6回ESG国際シンポジウム運営委員会委員（令和3年3月まで）
平成	2年	4月	防災研究協会・非常勤講師（令和6年3月まで）
	3年	12月	関西地震観測研究協議会・地震記録分科主査（平成30年5月まで）
	30年	6月	関西地震観測研究協議会・座長（現在まで）
平成	11年	11月	地震調査研究推進本部・地震調査委員会・強震動評価部会・強震動予測手法検討分科会委員（現在まで）
	13年	6月	経済産業省資源エネルギー庁・総合資源エネルギー調査会臨時委員（平成15年6月まで）
	13年	10月	日本学術会議・メカニクス・構造研究連絡委員会地震工学専門委員会地震動小委員（平成15年10月まで）
	15年	7月	経済産業省原子力安全・保安院・総合資源エネルギー調査会臨時委員（平成16年6月まで）
	17年	4月	地震調査研究推進本部・地震調査委員会・強震動評価部会・地下構造モデル検討分科会委員（現在まで）
	17年	4月	経済産業省原子力安全・保安院・総合資源エネルギー調査会臨時委員（平成23年5月まで）
	20年	11月	四国地方整備局高知工事事務所・四国管内基礎地盤情報構築検討委員会委員（平成21年3月まで）

	21年	7月	四国地方整備局高知工事事務所・四国管内基礎地盤情報構築検討委員会委員（平成22年3月まで）	
	24年	4月	内閣府・首都直下地震モデル検討委員会委員（平成25年3月まで）	
	24年	4月	地震調査研究推進本部・政策委員会・調査観測部会委員（現在まで）	
	24年	5月	地震調査研究推進本部・地震調査委員会・強震動評価部会委員（現在まで）	
	27年	3月	原子力規制委員会・技術評価検討委員（令和4年3月まで）	
	29年	4月	地震調査研究推進本部・地震調査委員会・強震動評価部会長（現在まで）	
	29年	4月	地震調査研究推進本部・地震調査委員会委員（現在まで）	
令和	4年	4月	地震調査研究推進本部・政策委員会・予算調整部会長（現在まで）	
	4年	4月	地震調査研究推進本部・政策委員会委員（現在まで）	
平成	15年	8月	京都市・京都市防災マップ検討委員会委員（平成16年3月まで）	
	15年	11月	滋賀県・滋賀県地震被害想定調査検討委員会委員（平成16年3月まで）	
	16年	1月	京都府・京都府東南海・南海地震に関する防災対策検討委員会委員（平成17年3月まで）	
	18年	2月	京都府・京都府地震被害想定調査委員会委員（平成20年3月まで）	
	18年	12月	大分県・地震被害想定調査委員会委員（平成20年3月まで）	
	20年	2月	新潟県・地震，地質，地盤に関する小委員会委員（令和3年3月まで）	
	20年	9月	島根県・島根県原子力安全顧問（現在まで）	
	22年	9月	島根県・島根県地震被害想定調査検討委員会委員（平成26年6月まで）	
	24年	8月	大分県・防災対策推進委員会有識者会議被害想定部会委員（平成27年3月まで）	
	24年	11月	大阪府・大阪府防災会議専門委員（平成26年3月まで）	
	24年	11月	滋賀県・滋賀県地震被害想定調査検討委員会委員（平成26年3月まで）	
	27年	1月	堺市・堺市南海高野線連続立体交差事業鉄道構造形式検討委員会委員（平成31年1月まで）	
	28年	8月	徳島県・徳島県中央構造線・活断層地震に係る被害想定検討委員会委員（平成30年7月まで）	
	令和	3年	11月	大阪府・IR予定区域等における液状化対策に関する専門家会議委員（令和6年3月まで）
	平成	13年	5月	防災科学技術研究所・確率論的地震動予測地図検討委員会委員（平成18年3月まで）
13年		8月	（独）国立科学博物館・特別展「地震展（仮称）」企画委員会委員（平成15年9月まで）	
14年		4月	地震予知総合研究振興会・サイスモテクトニクス研究会「震源特性部会」委員（平成17年3月まで）	

	14年	5月	防災科学技術研究所・客員研究員（平成18年3月まで）
	14年	10月	東京大学地震研究所・大都市圏地殻構造調査研究運営委員会委員（平成19年3月まで）
	15年	12月	地震予知総合研究振興会・若狭東部地域の活断層・地震動評価に関する検討会委員（平成16年9月まで）
	16年	8月	東京大学地震研究所・地震予知研究協議会計画推進部会委員（平成18年3月まで）
	17年	4月	産業技術総合研究所・客員研究員（平成20年3月まで）
	17年	6月	地震予知総合研究振興会・サイスモテクトニクス研究会「地質・地震対話部会」委員（平成20年3月まで）
	17年	9月	東京大学地震研究所・糸魚川-静岡構造線研究運営委員会委員（平成22年3月まで）
	18年	8月	防災科学技術研究所・地下構造データベースの構築に関する運営委員会委員（平成22年3月まで）
	19年	8月	東京大学地震研究所・首都直下地震防災・減災プロジェクト研究運営委員会委員（平成24年3月まで）
	20年	4月	防災科学技術研究所・ひずみ集中帯に関する重点的調査観測・研究に関する運営委員会委員（平成25年3月まで）
	23年	7月	地域地盤環境研究所・評議員（現在まで）
	24年	7月	東京大学地震研究所・立川断層帯調査研究運営委員会委員（平成27年3月まで）
	25年	11月	東京大学地震研究所・日本海地震・津波調査プロジェクト運営委員会委員（令和2年3月まで）
	26年	5月	防災科学技術研究所・強震観測推進事業連絡委員会委員（令和3年3月まで）
	26年	9月	京都大学理学研究科附属知球熱学研究施設・「別府一万年山断層帯（大分平野一由布院断層帯東部）における重点的な調査観測」運営委員会委員（平成29年3月まで）
	27年	8月	地震予知総合研究振興会・南海トラフ～南西諸島海溝の地震・津波に関する研究会委員（令和2年3月まで）
	30年	1月	東京大学地震研究所・富士川断層帯における重点的な調査観測外部評価委員会委員（令和2年3月まで）
令和	2年	9月	東海国立大学機構名古屋大学減災連携研究センター・「屏風山・恵那山断層帯（恵那山一猿投山北断層帯）における重点的な調査観測外部評価委員会委員長（令和5年3月） （受賞歴）
平成	22年	9月	日本自然災害学会学術賞
	28年	10月	日本地震学会論文賞

論文

- 1) 天池文男・春日 茂・岸本清行・小林芳正・岩田知孝・入倉孝次郎 (1984). 反射波を用いた基盤構造の推定, 地震第2輯, 37, 185-196, doi:10.4294/zisin1948.37.2_185.
- 2) Iwata, T. and K. Irikura (1984). Estimation of irregular underground-structure from seismic ground motions, Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., 34, 1-18.
- 3) 出射隆文・堀家正則・岩田知孝 (1985). 堆積盆地における地震波コーダの性質, 地震第2輯, 38, 217-232, doi:10.4294/zisin1948.38.2_217.
- 4) 岩田知孝・入倉孝次郎 (1986). 観測された地震波から, 震源特性・伝播経路特性及び観測点近傍の地盤特性を分離する試み, 地震第2輯, 39, 579-593, doi: 10.4294/zisin1948.39.4_579.
- 5) 干場充之・堀家正則・出射隆文・岩田知孝 (1988). 地表付近の地質構造の地震動への影響 -堆積盆地上での地震動の解析と数値計算-, 地震第2輯, 41, 195-202, doi:10.4294/zisin1948.41.2_195.
- 6) Iwata, T. and K. Irikura (1988). Source parameters of the 1983 Japan Sea earthquake sequence, J. Phys. Earth, 36, 155-184, doi:10.4294/jpe1952.36.155.
- 7) 岩田知孝・入倉孝次郎 (1989). トモグラフィ法による断層面上の不均質破壊過程の推定, 地震第2輯, 42, 49-58, doi:10.4294/zisin1948.42.1_49.
- 8) 筒井智樹・小林芳正・芝 良昭・須田佳之・村井芳夫・岩田知孝・藤原広行・松井一郎 (1989). 反射法地震探査による琵琶湖東岸, 日野川河口の地下構造の推定, 地震第2輯, 42, 405-418, doi:10.4294/zisin1948.42.4_405.
- 9) 岩田知孝 (1991). 震源近傍の強震動とそれを用いた震源過程の推定, 地震第2輯, 44, 315-327, doi:10.4294/zisin1948.44.Supplement_315.
- 10) Shibutani, T., T. Ohkura, Y. Iio, M. Kanao, K. Nishigami, K. Tasaki, T. Iwata, Y. Kakehi, N. Hirano, M. Ando, B. C. Bautista, J.R. Puertollano, A.G. Lanuza, A.A. Melosantos, A. Chu, R. Pigtain, E. dela Cruz, and R. S. Punongbayan (1991). Search for the buried subfault(s) of the 16 July 1990 Luzon earthquake, the Philippines using aftershock observations, J. Nat. Disas. Sci., 13(1), 29-38.
- 11) Kakehi, Y. and T. Iwata (1992). Rupture process of the 1945 Mikawa earthquake as determined from strong motion records, J. Phys. Earth, 40, 635-655, doi:10.4294/jpe1952.40.635.
- 12) 青井 真・岩田知孝・小林芳正・入倉孝次郎 (1993). Waveform Inversionによる盆地構造の境界面形状の推定, 地震第2輯, 46, 95-107, doi:10.4294/zisin1948.46.2_95.
- 13) Iwata, T., K. Hatayama, H. Kawase, K. Irikura, and K. Matsunami (1995). Array observation of aftershocks of the 1995 Hyogoken-nambu earthquake at Higashinada ward, Kobe city, J. Natural Disas. Sci., 16(2), 41-48.
- 14) Hatayama, K., K. Matsunami, T. Iwata, and K. Irikura (1995). Basin-induced Love waves in the eastern part of the Osaka basin, J. Phys. Earth, 43, 131-155, doi: 10.4294/jpe1952.43.131.
- 15) Aoi, S., T. Iwata, K. Irikura, and F. J. Sánchez-Sesma (1995). Waveform inversion for determining the boundary shape of a basin structure, Bull. Seism. Soc. Am., 85, 1445-1455, doi:10.1785/BSSA0850051445.
- 16) 山本みどり・岩田知孝・入倉孝次郎 (1995). 釧路地方気象台における強震動と弱震動に対するサイト特性の評価, 地震第2輯, 48, 341-351, doi:10.4294/zisin1948.48.3_341.
- 17) Sekiguchi, H., K. Irikura, T. Iwata, Y. Kakehi and M. Hoshiba (1996). Determination of the location of faulting beneath Kobe during the 1995 Hyogo-ken Nanbu, Japan, earthquake from near-source particle motion, Geophys. Res. Lett., 23, 387-390, doi: 10.1029/96GL00251.
- 18) Sekiguchi, H., K. Irikura, T. Iwata, Y. Kakehi and M. Hoshiba (1996). Minute locating of faulting beneath Kobe and the waveform inversion of the source process during the 1995 Hyogo-ken Nanbu, Japan, earthquake using strong

- ground motion records, *J. Phys. Earth*, 44, 473-487, doi:10.4294/jpe1952.44.473.
- 19) Iwata, T., K. Hatayama, H. Kawase and K. Irikura (1996). Site amplification of ground motions during aftershocks of the 1995 Hyogo-ken Nanbu earthquake in severely damaged zone -Array observation of ground motions at Higashinada ward, Kobe city, Japan -, *J. Phys. Earth*, 44, 553-561, doi:10.4294/jpe1952.44.553.
 - 20) Pitarka, A., K. Irikura, T. Iwata, and T. Kagawa (1996). Basin structure effects in the Kobe area inferred from the modeling of ground motions from two aftershocks of the January 17, 1995, Hyogoken-Nanbu earthquake, *J. Phys. Earth*, 44, 563-576, doi:10.4294/jpe1952.44.563.
 - 21) Irikura, K., T. Iwata, H. Sekiguchi, A. Pitarka, and K. Kamae (1996). Lesson from the 1995 Hyogo-Ken Nanbu earthquake: Why were such destructive motions generated to buildings?, *J. Nat. Disas. Sci.*, 18, 99-127.
 - 22) Iwata, T. and H. Sekiguchi (1996). Source process and aftershock observation, The 1995 Hyogoken-Nanbu earthquake - Investigation into Damage to Civil Engineering Structures -, Committee of Earthq. Eng., Japan Soc. Civil Eng., 1-6.
 - 23) Aoi, S., T. Iwata, H. Fujiwara, and K. Irikura (1997). Boundary shape waveform inversion for two-dimensional basin structure using three-component array data of plane incident wave with an arbitrary azimuth, *Bull. Seism. Soc. Am.*, 87, 222-233, doi: 10.1785/BSSA0870010222.
 - 24) Pitarka, A., K. Irikura, and T. Iwata (1997). Modeling of ground motion in Higashinada (Kobe) area for an aftershock of the January 17, 1995, Hyogo-ken Nanbu, Japan, earthquake, *Geophys. J. Int.*, 131, 231-239, doi:10.1111/j.1365-246X.1997.tb01218.x.
 - 25) Pitarka, A., K. Irikura, T. Iwata, and H. Sekiguchi (1998). Three-dimensional simulation of the near-fault ground motion for the 1995 Hyogo-ken Nanbu, Japan, earthquake, *Bull. Seism. Soc. Am.*, 88, 428-440, doi:10.1785/BSSA0880020428.
 - 26) 関口春子・岩田知孝 (1998). 震源過程の推定と破壊的強震動の成因解明, *計算工学*, 3, 222-227.
 - 27) Bouchon, M., H. Sekiguchi, K. Irikura, and T. Iwata (1998). Some characteristics of the stress field of the 1995 Hyogo-ken Nanbu (Kobe) earthquake, *J. Geophys. Res.*, 103, 24271-24282, doi:10.1029/98JB02136.
 - 28) 三宅弘恵・岩田知孝・入倉孝次郎 (1999). 経験的グリーン関数法を用いた1997年3月26日 (MJMA6.5) 及び5月13日 (MJMA6.3) 鹿児島県北西部地震の強震動シミュレーションと震源モデル, *地震第2輯*, 51, 431-442, doi:10.4294/zisin1948.51.4_431.
 - 29) Sekiguchi, H., K. Irikura, and T. Iwata (2000). Fault geometry at the rupture termination of the 1995 Hyogo-ken Nanbu earthquake, *Bull. Seism. Soc. Am.*, 90, 117-133, doi: 10.1785/0119990027.
 - 30) Miyake, H., T. Iwata, and K. Irikura (2001). Estimation of rupture propagation direction and strong motion generation area from azimuth and distance dependence of source amplitude spectra, *Geophys. Res. Lett.*, 28, 2727-2730, doi:10.1029/2000GL011669.
 - 31) Satoh, T., H. Kawase, T. Iwata, S. Higashi, T. Sato, K. Irikura, and H.-C. Huang (2001). S-wave velocity structure of the Taichung basin, Taiwan, estimated from array and single-station records of microtremors, *Bull. Seism. Soc. Am.*, 91, 1267-1282, doi: 10.1785/0120000706.
 - 32) Sekiguchi, H. and T. Iwata (2002). Rupture process of the 1999 Kocaeli, Turkey, earthquake estimated from strong-motion waveforms, *Bull. Seism. Soc. Am.*, 92, 300-312, doi:10.1785/0120000811.
 - 33) Sekiguchi, H., K. Irikura and T. Iwata (2002). Source inversion for estimating continuous slip distribution on a fault - Introduction of Green's functions convolved with a correction function to give moving dislocation effects in subfaults, *Geophys. J. Int.*, 150, 377-391, doi:10.1046/j.1365-246X.2002.01669.x.
 - 34) 小泉尚嗣・佃 栄吉・高橋 誠・横田 裕・岩田知孝・入倉孝次郎・上砂正一・高木 清・長谷川昌志 (2002). 黄檗断層の地下構造調査, *地震第2輯*, 55, 153-166, doi:10.4294/zisin1948.55.2_153.
 - 35) Asano, K., T. Iwata, and K. Irikura (2003). Source characteristics of shallow intraslab earthquakes derived from strong motion simulations, *Earth Planets Space*, 55, e5-e8, doi:10.1186/BF03351744.
 - 36) Zhang, W., T. Iwata, K. Irikura, H. Sekiguchi, and M. Bouchon (2003). Heterogeneous distribution of the dynamic source parameters of the 1999 Chi-Chi, Taiwan earthquake, *J. Geophys. Res.*, 108, 2232, doi:10.1029/2002JB001889.
 - 37) Miyake, H., T. Iwata, and K. Irikura (2003). Source characterization for broadband ground-motion simulation: Kinematic heterogeneous source model and strong motion generation area, *Bull. Seism. Soc. Am.*, 93, 2531-2545, doi:10.1785/0120020183.

- 38) 岩田知孝・三宅弘恵 (2003). シナリオ地震に基づく強震動予測の現状, 自然災害科学, 22, 229-231.
- 39) 岩田知孝・三宅弘恵 (2004). 強震動予測レシピに基づくシナリオ地震による強震動シミュレーション-琵琶湖西岸断層北部を起震断層として-, 自然災害科学, 23, 259-271.
- 40) Zhang, W., T. Iwata, K. Irikura, A. Pitarka, and H. Sekiguchi (2004). Dynamic rupture process of the 1999 Chi-Chi, Taiwan, earthquake, *Geophys. Res. Lett.*, 31, L10605, doi:10.1029/2004GL019827.
- 41) Satoh, T., H. Kawase, T. Iwata, S. Higashi, T. Sato, and H.-C. Huang (2004). S-wave velocity structures of sediments estimated from array microtremor records and site responses in the near-fault region of the 1999 Chi-Chi, Taiwan earthquake, *J. Seismology*, 8, 545-558, doi:10.1007/s10950-004-2644-3.
- 42) 浅野公之・岩田知孝・入倉孝次郎 (2004). 2003年5月26日に宮城県沖で発生したスラブ内地震の震源モデルと強震動シミュレーション, 地震第2輯, 57, 171-185, doi:10.4294/zisin1948.57.2_171.
- 43) Yamada, N. and T. Iwata (2005). Long-period ground motion simulation in the Kinki area during the MJ 7.1 foreshock of the 2004 off the Kii peninsula earthquakes, *Earth Planets Space*, 57, 197-202, doi:10.1186/BF03351815.
- 44) Suzuki, W., T. Iwata, K. Asano, and N. Yamada (2005). Estimation of the source model for the foreshock of the 2004 off the Kii peninsula earthquakes and strong ground motion simulation of the hypothetical Tonankai earthquake using the empirical Green's function method, *Earth Planets Space*, 57, 345-350, doi: 10.1186/BF03352574.
- 45) Asano, K., T. Iwata, and K. Irikura (2005). Estimation of source rupture process and strong ground motion simulation of the 2002 Denali, Alaska, earthquake, *Bull. Seism. Soc. Am.*, 95, 1701-1715, doi: 10.1785/0120040154.
- 46) 岩田知孝・浅野公之 (2005). 2004年9月5日紀伊半島沖・東海道沖の地震による地震動, 地震第2輯, 58, 273-279, doi:10.4294/zisin1948.58.3_273.
- 47) Asano, K. and T. Iwata (2006). Source process and near-source ground motions of the 2005 West Off Fukuoka Prefecture earthquake, *Earth Planets Space*, 58, 93-98, doi:10.1186/BF03351920.
- 48) Suzuki, W. and T. Iwata (2006). Source model of the 2005 west off Fukuoka prefecture earthquake estimated from the empirical Green's function simulation of broadband strong motions, *Earth Planets Space*, 58, 99-104, doi:10.1186/BF03351921.
- 49) Zhang, W., T. Iwata, and K. Irikura (2006). Dynamic simulation of a dipping fault using a three-dimensional finite difference method using nonuniform grid spacing, *J. Geophys. Res.*, 111, B05301, doi:10.1029/2005JB003725.
- 50) 長郁夫・鶴来雅人・香川敬生・岩田知孝 (2006). 広帯域強震動評価のための堆積層深部地盤速度構造のモデル化-大阪堆積盆地のサイト増幅スペクトルに着目して-, 日本地震工学会論文集, 6(4), 113-132, doi:10.5610/jae.6.4_113.
- 51) 吹田啓一郎・北村有希子・五藤友規・岩田知孝・釜江克宏 (2007). 高度成長期に建設された超高層建物の長周期地震動に対する応答特性: 想定南海トラフ地震の関西地域における予測波を用いた検討, 日本建築学会構造系論文集, 611, 55-61, doi:10.3130/aijs.72.55_1.
- 52) Suzuki, W. and T. Iwata (2007). Source model of the 2005 Miyagi-Oki, Japan, earthquake estimated from broadband strong motions, *Earth Planets Space*, 59, 1155-1171, doi:10.1186/BF03352063.
- 53) Iwaki, A. and T. Iwata (2008). Validation of 3-D basin structure models for long-period ground motion simulation in the Osaka basin, western Japan, *J. Seismology*, 12, 197-215, doi:10.1007/s10950-008-9088-0.
- 54) Iwata, T., T. Kagawa, A. Petukhin, and Y. Onishi (2008). Basin and crustal velocity structure models for the simulation of strong ground motions in the Kinki area, Japan, *J. Seismology*, 12, 223-234, doi:10.1007/s10950-007-9086-7.
- 55) 栗山雅之・隈元 崇・関口春子・岩田知孝 (2008). 地震規模予測の考え方の違いが長大活断層で発生する地震の強震動予測結果にもたらす影響の評価 -糸魚川-静岡構造線活断層帯北部・中部を震源断層として-, 自然災害科学, 27, 45-67.
- 56) Asano, K. and T. Iwata (2009). Source rupture process of the 2004 Chuetsu, Mid-Niigata prefecture, Japan, earthquake inferred from waveform inversion with dense strong-motion data, *Bull. Seism. Soc. Am.*, 99, 123-140, doi:10.1785/0120080257.
- 57) 岩城麻子・岩田知孝・関口春子・浅野公之・吉見雅行・鈴木晴彦 (2009). 大分平野における想定南海地震による長周期地震動のシミュレーション, 地震第2輯, 61, 161-173, doi:10.4294/zisin.61.161.
- 58) 岩田知孝 (2009). 強震動予測のための特性化震源モデル (総合報告), 地震第2輯, 61, S425-S431, doi:10.4294/zisin.61.425.

- 59) Suzuki, W. and T. Iwata (2009). Broadband seismic wave radiation process of the 2000 western Tottori, Japan, earthquake revealed from wavelet domain inversion, *J. Geophys. Res.*, 114, B08302, doi:10.1029/2008JB006130.
- 60) 木村美帆・浅野公之・岩田知孝 (2009). 鉛直地震計アレイデータを用いた強震動と弱震動の地盤震動特性の比較 - 柏崎刈羽原子力発電所構内における2007年新潟県中越沖地震とその前後の地震の記録を対象として-, *地震第2輯*, 62, 61-65, doi: 10.4294/zisin.62.61.
- 61) 浅野公之・岩田知孝・岩城麻子・栗山雅之・鈴木 亘 (2009). 地震および微動観測による石川県鳳珠郡穴水町における地盤震動特性, *地震第2輯*, 62, 121-135, doi:10.4294/zisin.62.121.
- 62) Zhang, W., T. Iwata, and K. Irikura (2010). Dynamic simulation of the 1999 Chi-Chi, Taiwan, earthquake, *J. Geophys. Res.*, 115, B04305, doi:10.1029/2008JB006201.
- 63) Iwaki, A. and T. Iwata (2010). Simulation of long-period ground motion in the Osaka sedimentary basin: performance estimation and the basin structure effects, *Geophys. J. Int.*, 181, 1062-1076, doi:10.1111/j.1365-246X.2010.04556.x.
- 64) Tobita, T., S. Iai, and T. Iwata (2010). Numerical analysis of near-field asymmetric vertical motion, *Bull. Seism. Soc. Am.*, 100, 1456-1469, doi:10.1785/0120090301.
- 65) Petukhin, A., T. Iwata, and T. Kagawa (2010). Study on the effect of the oceanic water layer on strong ground motion simulations, *Earth Planets Space*, 62, 621-630, doi:10.5047/eps.2010.07.014.
- 66) 岩田知孝 (2010). 強震動, *自然災害科学*, 28, 313-324.
- 67) Asano, K. and T. Iwata (2011). Characterization of stress drops on asperities estimated from the heterogeneous kinematic slip model for strong motion prediction for inland crustal earthquakes in Japan, *Pure Appl. Geophys.*, 168, 105-116, doi:10.1007/s00024-010-0116-y.
- 68) Iwata, T. and K. Asano (2011). Characterization of the heterogeneous source model of intraslab earthquakes toward strong ground motion prediction, *Pure Appl. Geophys.*, 168, 117-124, doi:10.1007/s00024-010-0128-7.
- 69) Kuriyama, M. and T. Iwata (2011). Examination of source-model construction methodology for strong ground-motion simulation of multi-segment rupture during 1891 Nobi earthquake, *Earth Planets Space*, 63, 71-88, doi:10.5047/eps.2010.12.005.
- 70) 瀧口正治・浅野公之・岩田知孝 (2011). 近地強震記録を用いた海溝型繰り返し地震の震源過程の推定と比較 - 茨城県沖で1982年と2008年に発生したM7の地震を対象として -, *地震第2輯*, 63, 223-242, doi:10.4294/zisin.63.223.
- 71) Iwaki, A. and T. Iwata (2011). Estimation of three-dimensional boundary shape of the Osaka sedimentary basin by waveform inversion, *Geophys. J. Int.*, 186, 1255-1278, doi:10.1111/j.1365-246X.2011.05102.x.
- 72) Asano, K. and T. Iwata (2011). Source rupture process of the 2007 Noto Hanto, Japan, earthquake estimated by the joint inversion of strong motion and GPS data, *Bull. Seism. Soc. Am.*, 101, 2467-2480, doi:10.1785/0120100254.
- 73) Asano, K. and T. Iwata (2012). Source model for strong ground motion generation in the frequency range 0.1-10 Hz during the 2011 Tohoku earthquake, *Earth Planets Space*, 64, 1111-1123, doi:10.5047/eps.2012.05.003.
- 74) Kubo, H., K. Asano, and T. Iwata (2013). Source-rupture process of the 2011 Ibaraki-oki, Japan, earthquake (Mw 7.9) estimated from the joint inversion of strong-motion and GPS data: Relationship with seamount and Philippine Sea Plate, *Geophys. Res. Lett.*, 40, 3003-3007, 10.1002/grl.50558.
- 75) Kuriyama, M., H. Sato, and T. Iwata (2013). Examination of source fault model for the Gifu-Ichinomiya fault based on seismic intensity data, *Earth Planets Space*, 64, 1449-1462, doi:10.5047/eps.2013.06.001.
- 76) Somei, K., K. Asano, T. Iwata, and K. Miyakoshi (2014). Source scaling of inland crustal earthquake sequences in Japan using the S-wave coda spectral ratio method, *Pure Appl. Geophys.*, 171, 2747-2766, doi:10.1007/s00024-014-0774-2.
- 77) Tanaka, M., K. Asano, T. Iwata, and H. Kubo (2014). Source rupture process of the 2011 Fukushima-ken Hamadori earthquake: how did the two subparallel faults rupture?, *Earth Planets Space*, 66, 101, doi:10.1186/1880-5981-66-101.
- 78) Kusumoto, S., Y. Itoh, K. Takemura, and T. Iwata (2015). Displacement fields of sedimentary layers controlled by fault parameters: The discrete element method of controlling basement motions by dislocation solutions, *Earth Sciences*, 4(3), 89-94, doi:10.11648/j.earth.20150403.11.
- 79) Maufroy, E., E. Chaljub, F. Hollender, J. Kristek, P. Moczo, P. Klin, E. Priolo, A. Iwaki, T. Iwata, V. Etienne, F. De

- Martin, N. P. Theodoulidis, M. Manakou, C. Guyonnet-Benaize, K. Pitilakis, P.-Y. Bard (2015). Earthquake ground motion in the Mygdonian basin, Greece: The E2VP verification and validation of 3D numerical simulation up to 4 Hz, *Bull. Seismol. Soc. Am.*, 105, 1398-1418, doi:10.1785/0120140228.
- 80) 浅野公之・岩田知孝・宮腰研・大堀道広 (2015). 微動アレイ観測と単点微動観測による加賀平野南部及び
邑知潟平野の堆積平野速度構造モデルの検討, *日本地震工学会論文集*, 15(7), 194-204,
doi:10.5610/jaee.15.7_194.
- 81) Kubo, H., K. Asano, T. Iwata, and S. Aoi (2016). Development of fully Bayesian multiple-time-window source
inversion, *Geophys. J. Int.*, 204, 1601-1619, doi: 10.1098/gji/ggv540.
- 82) Asano, K., H. Sekiguchi, T. Iwata, M. Yoshimi, T. Hayashida, H. Saomoto, and H. Horikawa (2016). Modelling of
wave propagation and attenuation in the Osaka sedimentary basin, western Japan, during the 2013 Awaji Island
earthquake, *Geophys. J. Int.*, 204, 1678-1694, doi:10.1098/gji/ggv543.
- 83) 三宅弘恵・浅野公之・額額一起・岩田知孝 (2016). 2011年東北地方太平洋沖地震の強震記録を用いた震源
モデルの概要, *日本地震工学会論文集*, 16(4), 12-21, doi:10.5610/jaee.16.4_12.
- 84) Asano, K. and T. Iwata (2016). Source rupture processes of the foreshock and mainshock in the 2016 Kumamoto
earthquake sequence estimated from the kinematic waveform inversion of strong motion data, *Earth Planets Space*,
68, 147, doi: 10.1186/s40623-016-0519-9.
- 85) Asano, K., T. Iwata, H. Sekiguchi, K. Somei, K. Miyakoshi, S. Aoi, and T. Kunugi (2017). Surface wave group
velocity in the Osaka sedimentary basin, Japan, estimated using ambient noise cross-correlation functions, *Earth
Planets Space*, 69, 108, doi: 10.1186/s40623-017-0694-3.
- 86) 堤 浩之・遠田晋次・後藤秀昭・熊原康博・石村大輔・高橋直也・谷口 薫・小俣雅志・郡谷順英・五味
雅宏・浅野公之・岩田知孝 (2018). 熊本県益城町寺中における2016年熊本地震断層のトレンチ調査, 活断
層研究, 49, 31-39, doi:10.11462/afr.2018.49_31.
- 87) 上林宏敏・大堀道広・川辺秀憲・釜江克宏・山田浩二・宮腰 研・岩田知孝・関口春子・浅野公之 (2018).
和歌山平野の3次元地下構造モデル構築と中央構造線断層帯による強震動予測, *日本地震工学会論文集*,
18(5), 33-56, doi:10.5610/jaee.18.5_33.
- 88) Asano, K. and T. Iwata (2019). Source rupture process of the 2018 Hokkaido Eastern Ibaraki earthquake deduced from
strong-motion data considering seismic wave propagation in three-dimensional velocity structure, *Earth Planets
Space*, 71, 101, doi:10.1186/s40623-019-1080-0.
- 89) 関口春子・浅野公之・岩田知孝 (2019). 奈良盆地の3次元速度構造モデルの構築と検証, *地質学雑誌*, 125,
715-730, doi:10.5575/geosoc.2018.0053.
- 90) 染井一寛・浅野公之・岩田知孝・宮腰 研・吉田邦一・吉見雅行 (2019). 2016年熊本地震系列の強震記録
から分離した震源・伝播経路・サイト増幅特性, *日本地震工学会論文集*, 19(6), 42-54,
doi:10.5610/jaee.19.6_42.
- 91) Chen, Y.-C., H.-C. Huang, T. Iwata, and K. Asano (2019). Strong ground motion simulation of 2016 ML6.6 Meinong,
Taiwan, earthquake using the empirical Green's function method, *J. Geophys. Res.*, 124, 12905-12919,
doi:10.1029/2019JB01766.
- 92) Viens, L. and T. Iwata (2020). Improving the retrieval of offshore-onshore correlation functions with machine
learning, *J. Geophys. Res.*, 125, e2020JB019730, doi:10.1029/2020JB019730.
- 93) Kubo, H., K. Asano, T. Iwata, and S. Aoi (2020). Along-dip variation in seismic radiation of the 2011 Ibaraki-oki,
Japan, earthquake (MW 7.9) inferred using a multiple-period-band source inversion approach, *J. Geophys. Res.*, 125,
e2020JB019936, doi: 10.1029/2020JB019936.
- 94) Sawaki, Y., Y. Ito, K. Ohta, T. Shibutani, and T. Iwata (2021). Seismological structures on bimodal distribution of
deep tectonic tremor, *Geophys. Res. Lett.*, 48, e2020GL092183, doi:10.1029/2020GL092183.
- 95) Asano, K. and T. Iwata (2021). Revisiting the source rupture process of the mainshock of the 2016 Kumamoto
earthquake and implications for the generation of near-fault ground motions and forward-directivity pulse, *Bull.
Seismol. Soc. Am.*, 111, 2426-2440, doi:10.1785/0120210047.
- 96) Asano, K., T. Iwata, K. Yoshida, N. Inoue, K. Somei, K. Miyakoshi, and M. Ohori (2022). Microtremor array surveys
and development of the velocity model in the Hakodate Plain, Hokkaido, Japan, *Earth Planets Space*, 74, 94, doi:
10.1186/s40623-022-01647-w.

- 97) Oprsal, I., H. Sekiguchi, T. Iwata, and J. Burjanek (2023). Influence of low-velocity superficial layer on long-period basin-induced surface waves in eastern Osaka basin, *Earth Planets Space*, 75, 55, doi:10.1186/s40623-023-01804-9.
- 98) 浅野公之・岩田知孝・関口春子 (2024). 不均質震源断層モデルのすべり角のばらつき, *地震第2輯*, 76, 287-294, doi:10.4294/zisin.2023-14.
- 99) 土肥裕史・重野伸昭・森川信之・藤原広行・能島暢呂・岩田知孝 (2024). 応答スペクトルに関する地震動ハザード評価の検討—地震動の応答スペクトルに関する地震動予測地図に向けて—, *日本地震工学会論文集*, 24(1), 124-147, doi:10.5610/jace.24.1_124.

【紀要論文・プロシーディングス論文等】

- 1) Amaike, F., S. Kasuga, K. Kisimoto, T. Iwata, K. Irikura, and Y. Kobayashi (1982). Estimation of base rock structure using reflected waves, *Proc. 6th Japan Earthq. Eng. Symp.*, 57-64.
- 2) 須本満由美・入倉孝次郎・岩田知孝 (1987). 経験的グリーン関数による高周波地震動の予測, *京都大学防災研究所年報*, 30B-1, 107-131.
- 3) Iwata, T. and K. Irikura (1988). Prediction of high-frequency strong motions based on heterogeneous faulting model, *Proc. 9th World Conf. Earthq. Eng.*, 2, 715-720.
- 4) 松波孝治・入倉孝次郎・岩田知孝・藤原広行・松井一郎 (1989). 大阪平野及びその周辺地域における広周波数帯域・広動帯域地震波観測, *京都大学防災研究所年報*, 32B-1, 53-60.
- 5) 岩田知孝・松波孝治・松井一郎 (1990). 岩盤上のアレイ観測によるsite特性の評価, *京都大学防災研究所年報*, 33B-1, 113-121.
- 6) 岩田知孝 (1990). 断層の不均質性を考慮した広い周波数帯域の強震動の合成, *日本建築学会第18回地盤震動シンポジウム論文集*, 55-60.
- 7) Iwata, T. and K. Irikura (1990). Simulation of wide-frequency-band strong ground motions based on the heterogeneous rupture process, *Proc. 8th Japan Earthq. Eng. Symp.*, 1, 205-210.
- 8) 松波孝治・岩田知孝 (1991). 広帯域地震アレイ観測による大阪平野の地震動特性 (1) -大阪湾岸地域で観測されるS波主要動付近の顕著な位相-, *京都大学防災研究所年報*, 34B-1, 165-175.
- 9) 岩田知孝・入倉孝次郎・J.-C. Gariel (1991). 地下における地震動特性-鉛直アレイ地震記録の数値シミュレーション-, *関西の大深度地盤特性シンポジウム*, 89-100.
- 10) 松波孝治・岩田知孝・入倉孝次郎 (1992). 近畿における広帯域強震動アレイ観測, *京都大学防災研究所年報*, 35B-1, 1-11.
- 11) Iwata, T., K. Irikura and J.-C. Gariel (1992). Estimation of effects of subsurface structure on ground motions using 3-D array data, *Proc. 10th World Conf. Earthq. Eng.*, 1, 247-252.
- 12) 岩田知孝・釜江克宏・入倉孝次郎 (1994). 近地強震記録を用いた1993年北海道南西沖地震最大余震 (1993/8/8 MJMA6.3) の震源過程, *月刊海洋号外*, 7, 北海道南西沖地震と津波, 80-87.
- 13) Iwata, T. and K. Irikura (1994). Estimation of source, propagation-path, and site effects using 3-D seismic array data, *Proc. 9th Japan Earthq. Eng. Symp.*, vol.3, 1994, E055-060.
- 14) Iwata, T. and K. Kamae (1995). Source parameter determination using regional strong motion network data, *Proc. 5th Inter. Conf. Seismic Zonation, Nice*, 580-587.
- 15) Hatayama, K., K. Matsunami, T. Iwata, and K. Irikura (1995). Basin-induced Love waves in the eastern part of the Osaka basin (Japan), *Proc. 5th Inter. Conf. Seismic Zonation, Nice*, 763-770.
- 16) 岩田知孝 (1995). 地震動と地盤構造, 1995年兵庫県南部地震で試された地盤震動研究, *日本建築学会第23回地盤震動シンポジウム論文集*, 29-38.
- 17) 岩田知孝・額満一起・山中浩明・瀬尾和太・大倉敬宏・香川敬生 (1996). 人工地震を用いた神戸・阪神間の3次元速度構造の推定, 第1回都市直下地震災害総合シンポジウム論文集, A41, 87-88.
- 18) 岩田知孝 (1996). 大阪盆地の地下構造と地震動, 1995年兵庫県南部地震で試された地盤震動研究(2)-大阪平野について考える-, *日本建築学会第24回地盤震動シンポジウム論文集*, 5-20.
- 19) Iwata, T., K. Hatayama, and A. Pitarka (1996). Site Amplification of Ground Motions during the 1995 Hyogo-ken Nanbu Earthquake, Japan, in Severely Damaged Zone, *Proc. 11th World Conf. Earthq. Eng.*, Acapulco, Mexico, paper no. 1649.
- 20) Japanese Working Group on Effects of Surface Geology on Seismic Motion (1997). Strong motion database,

- Cooperative strong motion observation in Kushiro, Hokkaido, Japan, Association for Earthquake Disaster Prevention, June 1997, 193pp.
- 21) 岩田知孝・関口春子・ピタルカアーベン・釜江克宏・入倉孝次郎 (1997). 1995年兵庫県南部地震時の震度7域の強震動と強震動予測, 第2回都市直下地震災害総合シンポジウム, A-13.
 - 22) 岩田知孝・関口春子・ピタルカアーベン・釜江克宏・入倉孝次郎 (1997). 1995年兵庫県南部地震時の震度7域の強震動, 日本地震学会強震動委員会強震動シンポジウム, 71-74.
 - 23) Sekiguchi, H., K. Irikura, and T. Iwata (1998). Detailed source process of the 1995 Hyogoken Nanbu (Kobe) earthquake using near-field strong ground motion data, Proc. 10th Japan Earthq. Eng. Symp., 1, 67-72.
 - 24) Iwata, T. and H. Sekiguchi, A. Pitarka, K. Kamae, and K. Irikura (1998). Evaluation of strong ground motions in the source area during the 1995 Hyogoken-Nanbu (Kobe) earthquake, Proc. 10th Japan Earthq. Eng. Symp., vol.1, 73-78.
 - 25) Pitarka, A., K. Irikura, and T. Iwata (1998). Basin Edge Effect on Ground Motion from Hyogo-ken Nanbu Earthquake in the Kobe region, Proc. 10th Japan Earthq. Eng. Symp., 1, 851-856.
 - 26) Maruo, Y., T. Iwata, and K. Irikura (1998). Site effects of Kobe large earthquake disaster belt using aftershock data, Proc. 2nd Int. Symp. on ESG, Vol. 2, 537-544.
 - 27) Kawase, H., T. Satoh, T. Iwata, and K. Irikura (1998). S-wave velocity structure in the San Fernando and Santa Monica areas, Proc. 2nd Int. Symp. on ESG, Vol.2, 737-740.
 - 28) Pitarka, A., K. Irikura, T. Iwata and H. Sekiguchi (1998). Local geological structure effects on ground motion from earthquake on basin-edge faults, Proc. 2nd Int. Symp. on ESG, Vol.2, 901-906.
 - 29) 岩田知孝・川瀬 博・佐藤智美・笥 楽麿・入倉孝次郎・ジョン・レイ・ジョン・アンダーソン (1998). アメリカ・ネバダ州レノにおけるアレイ微動観測, 第3回都市直下地震災害総合シンポジウム, 131-134.
 - 30) 岩田知孝・入倉孝次郎 (1998). 理論的強震動予測における震源のモデル化, 1995年兵庫県南部地震で試された地盤震動研究(4: 総括)-強震動予測の将来展望-, 日本建築学会第26回地盤震動シンポジウム論文集, 31-38.
 - 31) 岩田知孝・三宅弘恵・入倉孝次郎 (1999). レシビに基づく強震動シミュレーション -滋賀県北西部の活断層を震源とする場合-, 第4回都市直下地震シンポジウム, 99-100.
 - 32) 岡本大志・岩田知孝・入倉孝次郎 (1999). S波部分上下動, P波部分水平動のサイト増幅特性, 京都大学防災研究所年報, 42B-1, 159-166.
 - 33) Iwata, T., H. Sekiguchi, and K. Irikura (1999). Source and site effects on strong ground motion in near-source area during the 1995 Hyogo-ken Nanbu earthquake, Proc. International Seminar on Numerical Analysis in Solid and Fluid Dynamics in 1999, Osaka, 48-55.
 - 34) Iwata, T., H. Kawase, H. Sekiguchi, S. Matsushima, and K. Irikura (1999). Strong motion data and Geological structures distributed for Simultaneous Simulation for Kobe, Proc. 2nd Int. Symp. on ESG, Vol.3, 1295-1310.
 - 35) Kawase, H. and T. Iwata (1999). Report on submitted results of the simultaneous simulation for Kobe and Osaka, Proc. 2nd Int. Symp. on ESG, Vol.3, 1311-1337.
 - 36) Aoi, S., H. Sekiguchi, T. Iwata, and H. Fujiwara (1999). 3D Waveform simulation in Kobe of the 1995 Hyogoken-Nanbu earthquake by FDM using with discontinuous grids, Proc. 2nd Int. Symp. on ESG, Vol.3, 1347-1352.
 - 37) Kristek, J., P. Moczo, K. Irikura, T. Iwata, and H. Sekiguchi (1999). The 1995 Hyogo-Ken Nanbu, Japan, earthquake simulated by the 3D finite-difference method, Proc. 2nd Int. Symp. on ESG, Vol.3, 1361-1368.
 - 38) Iwata, T., H. Sekiguchi, A. Pitarka, and K. Irikura (1999). Ground motion simulations in the Kobe area during the 1995 Hyogoken-Nanbu earthquake, Proc. 2nd Int. Symp. on ESG, Vol.3, 1369-1376.
 - 39) Steidl, J. and T. Iwata (1999). Summary of State-of-Art report 2: Observation and Ground Structure, Proc. 2nd Int. Symp. on ESG, Vol.3, 1519-1520.
 - 40) Sekiguchi, H., K. Irikura and T. Iwata (2000). The source inversion with source waveforms including rupture directivity on each subfault by convolution technique, Proc. 12th World Conf. Earthq. Eng., Auckland, New-Zealand, 1269.
 - 41) Miyakoshi, K., T. Kagawa, H. Sekiguchi, T. Iwata and K. Irikura (2000). Source characterization of inland earthquakes in Japan using source inversion results, Proc. 12th World Conf. Earthq. Eng., Auckland, New-Zealand, 1335.

- 42) Kawase, H. and T. Iwata (2000). Simultaneous simulation for Kobe: What we have learned at ESG98, Proc. 12th World Conf. Earthq. Eng., Auckland, New-Zealand, 2676.
- 43) Higashi, S., T. Iwata, H. Kawase, T. Satoh, T. Sato, K. Irikura, and H.-C. Huang (2000). Array aftershock observation in the Taichung basin, Proc. International Workshop on Annual Commemoration of Chi-Chi earthquake, September 18-20, 2000, Taipei, Taiwan
- 44) Kawase, H., T. Satoh, T. Sato and T. Iwata (2000). Exploration of Underground Structures in the Taichung Basin Using Microtremors, Proc. International Workshop on Annual Commemoration of Chi-Chi earthquake, September 18-20, 2000, Taipei, Taiwan.
- 45) Iwata, T., H. Sekiguchi, and K. Irikura (2000). Rupture process of the 1999 Chi-Chi, Taiwan, earthquake and its near-source strong ground motions, Proc. International Workshop on Annual Commemoration of Chi-Chi earthquake, September 18-20, 2000, Taipei, Taiwan, Vol.1, 36-46.
- 46) Iwata, T. and H. Sekiguchi (2000). Source process and near-source strong ground motions, Proc. 6th Int. Conf. Seismic Zonation, Palm Springs, CDROM, II-86
- 47) 岩田知孝 (2000). トルコ・コジャエリ地震と台湾・集集地震の震源過程と震源近傍強震動, 日本建築学会第28回地盤震動シンポジウム論文集, 1-8.
- 48) 佐藤智美・川瀬博・岩田知孝・東貞成・佐藤俊明・入倉孝次郎(2000). 台湾・集集地震の強震動特性と地盤震動, 日本建築学会第28回地盤震動シンポジウム論文集, 40-51.
- 49) 岩田知孝・関口春子 (2000). 震源近傍強震動にみられる震源特性, レベル2地震に対する土構造物の耐震設計シンポジウムおよび講習会テキスト, 地盤工学会, 303-310.
- 50) 堀川晴央・関口春子・岩田知孝・杉山雄一 (2001). 2000年鳥取県西部地震の震源モデル, 活断層・古地震研究報告, 1, 27-40.
- 51) 関口春子・岩田知孝 (2001). 1999年台湾・集集地震のやや長周期(2~20秒)震源過程, 活断層・古地震研究報告, 1, 315-324.
- 52) 岩田知孝・関口春子 (2001), 2000年鳥取県西部地震の震源断層の実体, Seismo, 1-3, March, 2001.
- 53) 岩田知孝・関口春子 (2001). 強震動記録を用いた地震破壊過程の推定, 強震観測ネットワークに関するシンポジウム資料集, 日本地震学会強震動委員会, 11-16.
- 54) 岩田知孝・関口春子 (2002), 強震記録に基づく最近の地震の震源インバージョン, 月刊地球号外, 37, 総特集「最近の強震動予測研究—どこまで予測可能となったのか?」, 47-55.
- 55) 岩田知孝・川瀬博・関口春子・入倉孝次郎・松島信一 (2002). 兵庫県南部地震の同時シミュレーション～第2回表層地質が地震動に及ぼす影響に関する国際シンポジウムから～月刊地球号外, 37, 総特集「最近の強震動予測研究—どこまで予測可能となったのか?」, 170-178.
- 56) 岩田知孝・関口春子 (2002). 2000年鳥取県西部地震の震源過程, 月刊地球号外, 38, 総特集「西南日本の地震活動」, 182-188.
- 57) 関口春子・岩田知孝 (2002). 2001年芸予地震の震源過程, 月刊地球号外, 38, 総特集「西南日本の地震活動」, 239-246.
- 58) 岩田知孝・関口春子・三宅弘恵・浅野公之 (2002). 不均質震源特性の抽出と分析, 平成13年科学技術振興調整費「地震災害軽減のための強震動予測マスターモデルに関する研究」第1回シンポジウム論文集, 21-28.
- 59) Iwata, T. and H. Sekiguchi (2002). Source process and near-source ground motion during the 2000 Tottori-ken Seibu earthquake (Mw6.8), Reports on Assessments of Seismic local-site effects at plural test sites, MEXT, 231-241.
- 60) 岩田知孝・関口春子 (2002), 2000年鳥取県西部地震の震源過程と震源域強震動, 第11回日本地震工学シンポジウム論文集, 125-128.
- 61) 宮腰研・Anatoly PETUKHIN・岩田知孝・関口春子(2002). 1997年鹿児島県北西部地震におけるやや短周期域の震源モデル, 第11回日本地震工学シンポジウム論文集, 129-132.
- 62) 入倉孝次郎・三宅弘恵・岩田知孝・釜江克宏・川辺秀憲 (2002). 強震動予測のための修正レシピとその検証, 第11回日本地震工学シンポジウム論文集, 567-572.
- 63) 入倉孝次郎・三宅弘恵・岩田知孝・釜江克宏・川辺秀憲・Luis A. Dalguer (2003). 地震動予測地図における強震動評価について—内陸地震と海溝型地震に対する強震動予測とその問題点—, 地震動予測地図ワークショップ—地震調査研究と地震防災工学・社会科学との接点—予稿集, 文部科学省・防災科学技術研究所,

35-52.

- 64) 入倉孝次郎・三宅弘恵・岩田知孝・釜江克宏・川辺秀憲・Luis A. Dalguer (2003). 将来の大地震による強震動を予測するためのレシピ, 京都大学防災研究所年報, 46B, 105-120.
- 65) 竹中博士・藤井雄士郎・川瀬 博・宮腰 研・岩田知孝 (2003). 震源インバージョンの結果から抽出した1997年鹿児島県北西部地震のすべり速度関数, 平成14年科学技術振興調整費「地震災害軽減のための強震動予測マスターモデルに関する研究」第2回シンポジウム論文集, 93-98.
- 66) 岩田知孝・三宅弘恵・浅野公之・ZHANG, Wenbo・鈴木 亘・関口春子 (2003). 不均質震源特性の抽出と分析, 平成14年科学技術振興調整費「地震災害軽減のための強震動予測マスターモデルに関する研究」第2回シンポジウム論文集, 109-112.
- 67) Cho, I., M. Tsurugi, T. Iwata, T. Kagawa, and B. Zhao (2004). Modeling of the spectral amplification characteristics at the strong motion observation sites in the Osaka basin, Japan, Proc. 13th World Conf. Earthq. Eng., Vancouver, B.C., Canada, 825.
- 68) Asano, K., T. Iwata, and K. Irikura (2004). Characterization of source models of shallow intraslab earthquakes using strong motion data, Proc. 13th World Conf. Earthq. Eng., Vancouver, B.C., Canada, 835.
- 69) Irikura, K., H. Miyake, T. Iwata, K. Kamae, H. Kawabe, and L. A. Dalguer (2004). Recipe for predicting strong ground motion from future large earthquakes, Proc. 13th World Conf. Earthq. Eng., Vancouver, B.C., Canada, 1371.
- 70) Iwata, T., H. Sekiguchi, H. Miyake, W. Zhang, and K. Miyakoshi (2004). Dynamic source parameters and characterized source model for strong motion prediction, Proc. 13th World Conf. Earthq. Eng., Vancouver, B.C., Canada, 2392.
- 71) Miyake, H., T. Iwata, and K. Irikura (2004). Controlling factors of strong ground motion prediction for scenario earthquakes, Proc. 13th World Conf. Earthq. Eng., Vancouver, B.C., Canada, 2801.
- 72) 岩田知孝・三宅弘恵 (2004). 最近の高精度強震動予測技術, 日本建築学会パネルディスカッション「強震動予測と設計用入力地震動」パネルディスカッション資料, 日本建築学会構造委員会振動運営委員会, 5-12.
- 73) 岩田知孝 (2004). プレート境界巨大地震による長周期地震動, 土木学会研究討論会「巨大地震災害 今, 土木技術者は何をすべきか?」資料, 巨大地震災害への対応特別委員会, 17-24.
- 74) Yamada, N. and T. Iwata (2004). Long-period Ground Motion Simulation in Kinki Area, Annuals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., 47C, 149-155.
- 75) Iwata, T. (2005). Source inversion of recent destructive earthquakes and characterized source model, Proc. 2nd International Workshop on Strong Ground Motion Prediction and Earthquake Tectonics in Urban Areas, Tokyo, 45-48.
- 76) 岩田知孝・浅野公之・山田伸之・鈴木亘 (2006). 2004年紀伊半島南東沖地震の長周期地震動, 海溝型巨大地震を考える -広帯域強震動の予測 2- シンポジウム論文集, 土木学会・日本建築学会巨大地震災害対応共同研究連絡会地震動部会, 57-60.
- 77) 鈴木亘・岩田知孝 (2006). 2004年紀伊半島南東沖地震記録を用いた想定東南海地震の強震動シミュレーション, 海溝型巨大地震を考える -広帯域強震動の予測 2- シンポジウム論文集, 土木学会・日本建築学会巨大地震災害対応共同研究連絡会地震動部会, 75-82.
- 78) 山中浩明・元木健太郎・瀬尾和大・福元俊一・高橋寿幸・山田伸之・浅野公之・岩田知孝 (2006). 2004年新潟県中越地震の余震観測と微動観測, 月刊地球号外, 53, 「2004年新潟県中越地震」, 172-177
- 79) 岩田知孝 (2006). 強震動研究, 月刊地球, 28, 179-185
- 80) Iwata, T., T. Kagawa, A. Petukhin, and Y. Ohnishi (2006). Basin and crustal structure model for strong motion simulation in Kinki, Japan, Proc. 3rd Int. Symp. on ESG, Grenoble, 435-442.
- 81) Iwata, T., K. Asano, and W. Suzuki (2006). Source model of the 2005 West Off Fukuoka prefecture, Japan, earthquake and its ground motion characteristics in Fukuoka city, Proc. 3rd Int. Symp. on ESG, Grenoble, 599-606.
- 82) Iwata, T., T. Kagawa, A. Petukhin, and Y. Ohnishi (2006). Basin and crustal structure model in Kinki area and long-period ground motions, Proc. Int. Workshop on Long-Period Ground Motion Simulation and Velocity Structures, 47-48.
- 83) Mori, H. and T. Iwata (2006). Nonlinear site amplification characteristics at strong motion stations during the 2004 Niigata-Ken-Chuetsu earthquake, Japan, Proc. 19th KKCNN Symp. Civil Eng., Kyoto, Japan, 113-116.

- 84) 芝良昭・岩田知孝 (2006). 震源モデルの与え方, 日本建築学会第34回地盤震動シンポジウム「設計用入力地震動作成指針に向けて」論文集, 15-22.
- 85) 白川智香子・岩田知孝 (2007). 京大宇治構内に設置されたボアホール地震アレイ記録を用いた京都盆地南東部の地盤震動特性, 京都大学防災研究所年報, 50B, 251-258.
- 86) 浅野公之・岩田知孝 (2007). 2005年福岡県西方沖地震の震源過程と強震動, 月刊地球, 29, 106-110.
- 87) 岩田知孝・浅野公之 (2007). 震源過程から見た特徴, 2007年能登半島地震の解明を目指して, 日本建築学会第35回地盤震動シンポジウム論文集, 7-12.
- 88) Iwata, T., K. Asano, M. Kuriyama, and A. Iwaki (2008). Non-linear site response characteristics of K-NET ISK005 station and relation to the earthquake disaster during the 2007 Noto-Hanto earthquake, central Japan, Proc. 14th World Conf. Earthq. Eng., paper no. 01-1026.
- 89) Asano, K. and T. Iwata (2008). Source modeling of recent large inland crustal earthquakes in Japan and source characterization for strong motion prediction, Proc. 14th World Conf. Earthq. Eng., paper no. 03-01-0025.
- 90) Iwaki, A. and T. Iwata (2008). Long-period ground motion characteristics in Osaka basin, Japan, from strong motion records of large earthquakes, Proc. 14th World Conf. Earthq. Eng., paper no. S10-053.
- 91) 岩田知孝・岩城麻子・関口春子・吉見雅行 (2008). 地域特性を反映した長周期地震動, 長周期地震動対策に関する公開研究集会, 日本建築学会構造委員会高機能社会耐震工学ワーキンググループ編, 1-52.
- 92) 岩田知孝・浅野公之・栗山雅之・岩城麻子 (2008). 2007年能登半島地震の震源モデルと強震動, 京都大学防災研究所年報, 51A, 121-127.
- 93) 岩田知孝・岩城麻子 (2009). 地下構造モデル及び震源モデルの差が大阪の長周期地震動予測に及ぼす影響, 日本建築学会第37回地盤震動シンポジウム論文集, 82-88.
- 94) 加藤 護・茂泉 優・岩田知孝 (2010). 京都大学吉田地区における関西地震観測研究協議会強震観測点の相対サイト特性, 京都大学防災研究所年報, 53B, 169-174.
- 95) 山下佳穂里・浅野公之・岩田知孝 (2010). 地震波干渉法による西日本の地殻速度構造(1)―表面波群速度の推定―, 京都大学防災研究所年報, 53B, 175-180.
- 96) 染井一寛・浅野公之・岩田知孝 (2010). 地震波コーダのスペクトル比から推定したひずみ集中帯内外の地震系列の応力降下量, 月刊地球, 32, 440-447.
- 97) 岩田知孝・浅野公之 (2010). 強震動予測のためのスラブ内地震の特性化震源モデルの構築, 北海道大学地球物理学研究報告, 73, 129-135.
- 98) 浅野公之・岩田知孝 (2010). 経験的グリーン関数法による2009年8月11日駿河湾の地震 (MJMA6.5) の震源モデルの推定と強震動シミュレーション, 北海道大学地球物理学研究報告, 73, 137-147.
- 99) 染井一寛・浅野公之・岩田知孝 (2010). ひずみ集中帯内外で発生した地殻内地震系列間の震源特性の比較, 第13回日本地震工学シンポジウム論文集, 305-312.
- 100) 岩田知孝・浅野公之 (2010). 強震動予測のためのスラブ内地震の特性化震源モデルの構築と検証, 第13回日本地震工学シンポジウム論文集, 1893-1898.
- 101) 木村美帆・浅野公之・岩田知孝 (2010). KiK-net―関西の水平動と上下動の地盤震動特性, 第13回日本地震工学シンポジウム論文集, 3137-3144.
- 102) 岩城麻子・岩田知孝 (2010). 地震波形モデリングによる大阪堆積盆地の3次元境界面形状の推定, 第13回日本地震工学シンポジウム論文集, 3601-3608.
- 103) Iwata, T. and A. Iwaki (2010). Long-period ground motion simulation of Osaka sedimentary basin for a hypothetical Nankai subduction earthquake, Proc. 7th Int. Conf. Urban Earthq. Eng. and 5th Int. Conf. Earthq. Eng., 157-161.
- 104) 岩田知孝・浅野公之・鈴木 亘・三宅弘恵 (2010). 震源における短周期地震動生成のモデル化, 日本建築学会第38回地盤震動シンポジウム論文集, 51-57.
- 105) Tobita, T., S. Iai, and T. Iwata (2010). Numerical analysis of trampoline effect in extreme ground motion, Proc. 5th Int. Conf. on Recent Adv. in Geotech. Earthq. Eng. and Soil Dyn. and Symp. in Honor of I.M. Idriss, San Diego, California USA, Paper No. 3.22.
- 106) Asano, K., A. Iwaki, and T. Iwata (2011). Estimation of Interstation Green's Functions in the Long-Period Range (2-10s) from Continuous Records of F-net Broadband Seismograph Network in Southwestern Japan, Proc. 4th IASPEI/IAEE Int. Symp. on the Effect of Surface Geology on Seismic Motion, Santa Barbara, paper no. 2.21.
- 107) Iwaki, A. and T. Iwata (2011). Testing three-dimensional basin structure model of the Osaka basin, Japan, estimated

- by waveform inversion, Proc. 4th IASPEI/IAEE Int. Symp. on the Effect of Surface Geology on Seismic Motion, Santa Barbara, paper no. 2.22.
- 108) Iwata, T., K. Asano, and H. Sekiguchi (2011). Construction of Procedure of Strong Ground Motion Prediction for Intraslab Earthquakes Based on Characterized Source Model, Proc. 4th IASPEI/IAEE Int. Symp. on the Effect of Surface Geology on Seismic Motion, Santa Barbara, paper no. 3.6.
- 109) Asano, K., T. Iwata, and H. Sekiguchi (2012). Application of Seismic Interferometry in the Osaka Basin for Validating the Three-dimensional Basin Velocity Structure Model, Proc. 15th World Conf. Earthq. Eng., Lisbon, Portugal, paper no. 0666.
- 110) Asano, K. and T. Iwata (2012). Broadband Strong Ground Motion Simulation of the 2011 Tohoku, Japan, Earthquake, Proc. 15th World Conf. Earthq. Eng., Lisbon, Portugal, paper no. 0934.
- 111) Iwata, T., K. Asano, and H. Sekiguchi (2012). A Prototype of Strong Ground Motion Prediction Procedure for Intraslab Earthquake Based on the Characterized Source Model, Proc. 15th World Conf. Earthq. Eng., Lisbon, Portugal, paper no. 4492.
- 112) Sato, K., K. Asano, and T. Iwata (2012). Long-period Ground Motion Characteristics of the Osaka Sedimentary Basin during the 2011 Great Tohoku Earthquake, Proc. 15th World Conf. Earthq. Eng., Lisbon, Portugal, paper no. 4494.
- 113) 浅野公之・岩田知孝・関口春子・宮腰 研・西村利光 (2013). 大阪堆積盆地における微動H/Vスペクトルの多点観測による盆地速度構造モデルの検証, 京都大学防災研究所年報, 56B, 117-129.
- 114) 浅野公之・岩田知孝・宮腰 研・大堀道広 (2014). 微動アレイ観測と単点微動観測による加賀平野南部及び比叡平野の堆積平野速度構造モデルの検討, 第14回日本地震工学シンポジウム論文集, 3002-3010.
- 115) 浅野公之・岩田知孝 (2015). 震源過程, 2014年長野県北部の地震に関する調査団報告, 日本地震工学会 2014年長野県北部の地震に関する調査団, 日本地震工学会, 19-21.
- 116) 岩田知孝 (2015). 地震はどこで起きるのか?: 地震調査研究推進本部による地震動予測地図を踏まえて, 粉体技術, 7(9), 810-815.
- 117) 関口春子・岩田知孝・上町断層帯重点調査観測研究グループ (2015). 上町断層帯に関する新たな知見とそれに基づく地震動予測, 日本地震工学会誌, 25, 13-18.
- 118) Iwata, T., H. Kubo, K. Asano, K. Sato, and S. Aoi (2016). Long-period Ground Motion Characteristics and Simulations in the Osaka Basin during the 2011 Great Tohoku Earthquake, Proc. 5th IASPEI/IAEE Int. Symp. on the Effect of Surface Geology on Seismic Motion, Taipei, paper I101A.
- 119) Tanaka, H., T. Iwata, and K. Asano (2016). Three-dimensional Ground Motion Simulations of Repeated Arrivals at Amagasaki Strong Motion Station, NW of the Osaka Sedimentary Basin, from Local Events, Proc. 5th IASPEI/IAEE Int. Symp. on the Effect of Surface Geology on Seismic Motion, Taipei, paper P101A.
- 120) Sekiguchi, H., K. Asano, T. Iwata, M. Yoshimi, H. Horikawa, H. Saomoto, and T. Hayashida (2016). Construction of a 3D Velocity Structure Model of Osaka Sedimentary Basin, Proc. 5th IASPEI/IAEE Int. Symp. on the Effect of Surface Geology on Seismic Motion, Taipei, paper P103B.
- 121) Asano, K., T. Iwata, H. Sekiguchi, K. Somei, K. Miyakoshi, S. Aoi, and T. Kunugi (2016). Surface Wave Group Velocity Tomography in the Osaka Sedimentary Basin, Japan, Using Ambient Noise Cross-Correlation Functions, Proc. 5th IASPEI/IAEE Int. Symp. on the Effect of Surface Geology on Seismic Motion, Taipei, paper P104B.
- 122) Somei, K., K. Asano, T. Iwata, K. Miyakoshi, and M. Ohori (2016). Estimation of Site Amplification Factors for Strong Motion Stations in the Hokuriku District, Japan, Proc. 5th IASPEI/IAEE Int. Symp. on the Effect of Surface Geology on Seismic Motion, Taipei, paper P105B.
- 123) 上林宏敏・大堀道広・川辺秀憲・釜江克宏・山田浩二・岩田知孝・関口春子・浅野公之 (2017). 中央構造線断層帯(金剛山地東縁-和泉山脈南縁)周辺域の地下構造モデルの高度化と強震動予測, 日本建築学会第45回地盤震動シンポジウム論文集, 63-74.
- 124) Ito, Y., T. Iwata, and K. Takemura (2017). Three-Dimensional Architecture of the Median Tectonic Line in Southwest Japan Based on Detailed Reflection Seismic and Drilling Surveys, Y. Itoh (ed.), Evolutionary Models of Convergent Margins - Origin of Their Diversity, 51-71.
- 125) Ito, Y., P. F. Green, K. Takemura, and T. Iwata (2017). Fission Track Thermochronology of Late Cretaceous Sandstones of the Izumi Group Adjacent to the Median Tectonic Line Active Fault System in Southwest Japan, Y.

- Itoh (ed.), Evolutionary Models of Convergent Margins - Origin of Their Diversity, 97-116.
- 126) Ito, Y. and T. Iwata (2017). Structural Features Along the Median Tectonic Line in Southwest Japan: An Example of Multiphase Deformation on an Arc-Bisecting Fault, Y. Itoh (ed.), Evolutionary Models of Convergent Margins - Origin of Their Diversity, 139-152.
 - 127) 岩田知孝・浅野公之 (2018). 2018年6月大阪府北部の地震時の強震動, 第55回自然災害科学総合シンポジウム講演論文集, 65-66.
 - 128) 永井夏織・浅野公之・加藤 護・岩田知孝 (2018). 経験的グリーン関数法を用いた2016年鳥取県中部の地震の広帯域震源モデル, 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, 110-118.
 - 129) 岩田知孝 (2018). 震源断層近傍の強震動特性, 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, 698-703.
 - 130) 岩田知孝・浅野公之・田中宏樹 (2018). 大阪堆積盆地北西部の尼崎観測点で観測される繰り返し地震波後続波群の特徴と3次元地震動シミュレーション, 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, 1797-1804.
 - 131) 染井一寛・浅野公之・岩田知孝・宮腰 研・吉田邦一・吉見雅行 (2018). 2016年熊本地震系列の強震記録から分離した震源・伝播経路・サイト増幅特性, 第15回日本地震工学シンポジウム論文集, 1814-1823.
 - 132) 浅野公之・関口春子・岩田知孝 (2018). 大阪平野・京都盆地の地盤構造モデル検証事例, 日本建築学会第46回地盤震動シンポジウム論文集, 77-84.
 - 133) 上林宏敏・浅野公之・関口春子 (2018). 平成30年6月18日大阪府北部の地震の震源像と大阪平野における強震動の概況, 日本建築学会第46回地盤震動シンポジウム論文集, 105-114.
 - 134) 浅野公之・岩田知孝・下村智也 (2018). 地震動観測記録を用いた京都盆地基盤深度モデルの検証, 月刊地球号外, 69, 「竹村恵二教授退職記念特集号」, 147-152.
 - 135) 岩田知孝・浅野公之・田中宏樹 (2018). 大阪堆積盆地北西部尼崎観測点で観測される繰り返し地震波後続波群, 月刊地球号外, 69, 「竹村恵二教授退職記念特集号」, 142-146.
 - 136) 岩田知孝・飯尾能久・松島信一 (2018). 2018年6月18日大阪府北部の地震, 地震ジャーナル, 66, 1-8.
 - 137) 浅野公之・岩田知孝・永井夏織 (2019). 平成30年北海道胆振東部地震の強震動と震源モデル, 日本建築学会第47回地盤震動シンポジウム論文集, 3-10.
 - 138) 岩田知孝・浅野公之・関口春子・山田浩二・末廣匡基 (2020). 中央構造線断層帯(金剛山地東縁一和泉山脈南縁)における重点的な調査観測による地下構造調査, 京都大学防災研究所年報, 63B, 25-45.
 - 139) Iwata, T., K. Asano, M. Yoshimi, H. Miyake, H. Sekiguchi, S. Matsushima, H. Kawase, F. Nagashima, H. Yamanaka, K. Chimoto, N. Yamada, T. Kanno, M. Shigefuji, S. Senna, T. Maeda, A. Wakai, K. Jin, H. Saomoto, S. Tsuno, M. Korenaga, H. Suzuki, S. Manabe, H. Matsuyama, A. Yatagai, S. Okamoto, and M. Suehiro (2020). Strong Ground Motion Prediction for New Source Fault Models of Futagawa and Hinagu Active Fault Zones, Japan, Proc. 17th World Conf. Earthq. Eng., paper no. 1c-0017.
 - 140) Sekiguchi, H., K. Asano, and T. Iwata (2020). Strong Ground Motion Simulation in Osaka Basin, Japan, for the 2018 Northern Osaka Prefecture Earthquake, Proc. 17th World Conf. Earthq. Eng., paper no. 1d-0046.
 - 141) Asano, K., K. Yoshida, K. Miyakoshi, M. Ohori, and T. Iwata (2020). Microtremor Surveys in Large Sedimentary Basins on the Coast of the Sea of Japan, Proc. 17th World Conf. Earthq. Eng., paper no. 1f-0006.
 - 142) 浅野公之・岩田知孝・関口春子・杉山長志 (2021). 近江盆地南部における微動アレイ探索, 京都大学防災研究所年報, 64B, 9-20.
 - 143) Iwata, T. (2021). Source and Site Effects of the 2016 Kumamoto, Japan, Mainshock, Proc. 6th IASPEI/IAEE Symposium on Effects of Surface Geology on Seismic Motion, paper no. GS1-I01.
 - 144) Fukutome, S., K. Asano, T. Iwata, and H. Sekiguchi (2021). Estimation of Basin Basement Depth Using Autocorrelations of Strong Motion Waveform Data in the Osaka and Kyoto Basins, Japan, Proc. 6th IASPEI/IAEE Symposium on Effects of Surface Geology on Seismic Motion, paper no. GS2-P11.
 - 145) Asano, K., T. Iwata, and M. Yoshimi (2021). Ground Motion Simulation of the Mainshock in the 2016 Kumamoto Earthquake Sequence, Japan, Using a Newly Developed 3D Velocity Model, Proc. 6th IASPEI/IAEE Symposium on Effects of Surface Geology on Seismic Motion, paper no. GS4-P03.
 - 146) Shimazu, H., T. Iwata, K. Asano, K. Somei, and S. Senna (2021). Estimation of Site Effects at Strong Motion Sites in Shizuoka Prefecture, Japan, Using the Spectral Inversion Method, Proc. 6th IASPEI/IAEE Symposium on Effects of Surface Geology on Seismic Motion, paper no. GS5-P34.
 - 147) Tsuno, S., H. Kawase, H. Yamanaka, S. Matsushima, T. Iwata, T. Hayakawa, T. Ikeura, S. Noguchi, and K. Kaneda

- (2021). Results of Blind Prediction Step 2: Simulation of Weak Motions Observed at the Kumamoto Test Site, Proc. 6th IASPEI/IAEE Symposium on Effects of Surface Geology on Seismic Motion, paper no. SS102-BP2.
- 148) Tsuno, S., H. Kawase, H. Yamanaka, S. Matsushima, T. Iwata, T. Hayakawa, T. Ikeura, S. Noguchi, and K. Kaneda (2021). Results of Blind Prediction Step 3: Simulation of Strong Motions Observed at the Kumamoto Test Site, Proc. 6th IASPEI/IAEE Symposium on Effects of Surface Geology on Seismic Motion, paper no. SS102-BP3.
- 149) 浅野公之・岩田知孝・関口春子 (2022). 宇治田原及び和東盆地における微動を用いた地盤構造調査, 京都大学防災研究所年報, 65B, 1-13.
- 150) 岩田知孝・浅野公之・大堀道広 (2022). 東北日本背弧域の震源断層モデルに基づく強震動予測, 地震予知連絡会会報, 108, 640-646.
- 151) 浅野公之・岩田知孝・関口春子 (2023). 強震記録の自己相関関数を用いた京都一奈良盆地深部地盤構造モデルの検証, 第16回日本地震工学シンポジウム論文集, Day1-G417-15.
- 152) 土肥裕史・重野伸昭・森川信之・藤原広行・能島暢呂・岩田知孝 (2023). 地震調査研究推進本部における地震動予測地図の取組ー地震動の応答スペクトルに関する地震動予測地図に向けた検討ー, 第16回日本地震工学シンポジウム論文集, Day3-C1-PB09.
- 153) 岩田知孝 (2023). 地震調査委員会強震動評価部会の活動と今後, 第16回日本地震工学シンポジウム論文集, Day3-G403-14.
- 154) 岩田知孝 (2023). 観測地震動に学んだ, 日本建築学会第51回地盤震動シンポジウム論文集, 35-42.
- 155) 岩田知孝・浅野公之・関口春子・山田浩二・新谷加代・石原大亮 (2024). 奈良盆地東縁断層帯における重点的な調査観測による地下構造調査, 京都大学防災研究所年報, 67B.

【分担執筆等】

- 1) Irikura, K. and T. Iwata (1992). Simulation and prediction of strong ground motions, Training Course in Seismology and Earthquake Engineering II, Int. Inst. Of Seismology and Earthquake Engineering (IISSE), Japan International Cooperation Agency (JICA), TBIC JR 92-23, 46pp
- 2) Irikura, K., T. Iwata, and M. Takemura (1993). 3.4 Simulation and prediction of strong ground motion, in Earthquake Motion and Ground Conditions, edited by The Architectural Institute of Japan.
- 3) 入倉孝次郎・岩田知孝・関口春子・釜江克宏 (1998). 6. 1995年兵庫県南部地震の強震動, 大震災に学ぶー阪神・淡路大震災調査研究委員会報告書ー, 第1巻, 土木学会関西支部, 116-144.
- 4) 入倉孝次郎・岩田知孝・関口春子・釜江克宏 (1998). 1995年兵庫県南部地震の震源断層と強震動, 阪神・淡路大震災調査報告, 機械編, 第1章, 阪神・淡路大震災調査研究委員会, 日本地震学会・土木学会・日本建築学会・地盤工学会・日本機械学会, 3-28.
- 5) 岩田知孝 (1998). 7.2地下構造と地震動, 「阪神・淡路大震災調査報告書」共通編ー2, 日本地震学会・土木学会・日本建築学会・地盤工学会・日本機械学会, 281-290.
- 6) 岩田知孝・関口春子 (1998). 4.3 深部地盤構造と強震動予測, 物理探査学会50周年記念号IIケーススタディ編, 第7章地震防災, 1217-1220.
- 7) 岩田知孝 (2001). 2.2 地震動, 防災学ハンドブック, 京都大学防災研究所編, 朝倉書店, 127-133.
- 8) 岩田知孝 (2002). 地震動のシミュレーション, 地震がわかる (分担執筆), アエラムック84, 朝日新聞社.
- 9) 岩田知孝 (2003). 兵庫県南部地震, 地震の起こり方, THE地震展, 図録 (分担執筆), 読売新聞東京本社, 155pp.
- 10) 岩田知孝 (2005). 地盤震動ー現象と理論ー, 日本建築学会, 406pp.
- 11) 岩田知孝 (2006). 都市域を襲う破壊的地震の際に、どのような揺れがあるかの予測法, ここまで進んだ日米の都市地震防災, 佐藤忠信・亀田弘行編, クバプロ, 14-22.
- 12) 山中浩明・武村雅之・岩田知孝・香川敬生・佐藤俊明 (2006). 強震動を科学する, 東大出版会 (共著).
- 13) 岩田知孝 (2007). 強震動生成領域と強震動, 2006年ジャワ島中部地震災害調査報告, 日本建築学会, 296pp.
- 14) 京都大学防災研究所 監修, 寶 馨・戸田圭一・橋本 学 編 (2011). 自然災害と防災の事典, 丸善出版, (「2.3.1 地震活動のモニタリング」の一部の執筆を担当).
- 15) Asano, K., H. Sekiguchi, T. Iwata, W. Suzuki, S. Aoi, and T. Kunugi (2014). Source Process of the 2011 Off the

Pacific Coast of Tohoku Earthquake, H. Kawase (ed.), in Studies on the 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake, Natural Disaster Science and Mitigation Engineering: DPRI reports, H. Kawase (Editor), Springer, Japan, 17-36.

- 16) 岩田知孝・浅野公之 (2014). 本震の震源過程, 東日本大震災合同調査報告 共通編1 地震・地震動, 東日本大震災合同調査報告書編集委員会・編, 日本地震工学会・日本地震学会・土木学会・日本建築学会・地盤工学会・日本機械学会・日本都市計画学会・日本原子力学会, 53-72.
- 17) 京都大学防災研究所 (2014). 巨大地震 なぜ起こる? そのときどうする?, 楽しい調べ学習シリーズ, PHP研究所, 63pp.